



一谷嫩軍記《陣屋》(12.6cm×16.4cm)

令和6年度 各務原市所蔵作品企画展



坪内節太郎展

- 芝居をみる -

令和6年 **10月19日(土) - 11月8日(金)**

国指定重要有形民俗文化財 各務の舞台「村国座」

岐阜県各務原市各務おがせ町3丁目46-1

開館時間/ 10:00～16:00 (入場無料)

休館日/ 毎週月曜日

主催 / 各務原市教育委員会 後援 / 各務原市

協力 / おくだ健太郎(歌舞伎ソムリエ)・各務中組区・村国座各務中組歌舞伎保存会

各務原市公式ウェブサイト <http://www.city.kakamigahara.lg.jp>

第39回国民文化祭 第24回全国障害者芸術・文化祭
「清流の国ぎふ」文化祭2024
ともに・つなぐ・みらいへ～清流文化の創造～
2024年10月14日(月・祝)～11月24日(日)



坪内節太郎 TSUBOUCHI Setsutarō

坪内節太郎は明治38年(1905)岐阜県稲葉郡那加村桐野(現各務原市)に生まれました。一家は大正4年(1915)に大阪市に転居、その後上京した節太郎は中川一政に師事し、岸田劉生らに感化され画家として歩み始めます。当初は、主に独立美術展で作品を発表していましたが、戦中戦後に岐阜県美濃町(現美濃市)で過ごした頃からは行動美術協会に属し、筆線を活かした枯淡な画風を確立しました。岐阜市に展覧会を誘致するなど、昭和54年(1979)に亡くなるまで、絵画制作や執筆活動、そして岐阜の文化の振興に尽くしました。

節太郎は、曾祖父や父の影響で芝居を好み、20代より歌舞伎や文楽などを主題とする作品を制作しています。「坪内節太郎展-芝居をみる-」では、節太郎が観劇中にスケッチした歌舞伎の場面を、各務の舞台「村国座」で展示します。村国神社祭礼奉納余興の子供歌舞伎の紹介とともに、節太郎がみた「芝居の世界」をお楽しみください。

関連講座

アートクロストーク

「歌舞伎絵をみる」

おくだ健太郎(歌舞伎ソムリエ)× 廣江貴子(市学芸員)

日時 / 11月9日(土) 14:00~15:30 (開場13:00)

会場 / 各務の舞台「村国座」

対象 : 一般(無料)

定員 : 100人(申込順)

申込期間 : 9月10日(火)~11月6日(水)

電話または応募フォーム用QRコードよりお申し込みください。

【応募フォーム】



1



2



3

- 1.『演劇界』表紙絵(3月号)
(24.5cm×19.0cm)
2. 勸進帳《名古屋於みその》
(14.2cm×18.2cm)
3. 絵本太功記《太功記十段目》
(14.2cm×20.0cm)

おくだ 健太郎(おくだ けんたろう)



1965年、愛知県生まれ。早稲田大学卒。在学中、歌舞伎にのめり込み、歌舞伎座の立ち見席に通いつめる。大学卒業後、歌舞伎公演のガイドの書き手・語り手を志す。現在、日本各地の地芝居・地歌舞伎のイヤホン解説をはじめ、歌舞伎を楽しむ「おくだ会」でのトーク会や観劇会を各地で開催、メディア出演など、さまざまな形で歌舞伎の魅力を伝える活動を行っている。



村国座について

村国座は、各務おがせ町の村国神社の祭礼に氏子が奉納する地芝居の舞台として、明治10年頃に建設されました。本格的な廻り舞台や花道、奈落などの機構を持つ劇場形式の芝居小屋で、国の重要有形民俗文化財に指定されています。平成21年(2009)には、3年を費やした平成の大修理が完了し、現在はさまざまな催しに活用されています。毎年10月の秋の大祭には、村国神社祭礼の奉納余興として子供歌舞伎が奉納されています。

国指定重要有形民俗文化財

各務の舞台「村国座」 ※会場に暖房設備はありません

岐阜県各務原市各務おがせ町 3 丁目 46 - 1

- 公共交通機関のご利用
名鉄各務原線「芋ヶ瀬駅」から徒歩約 30 分
- 駐車場のご利用
国道 21 号「山の前町」または「おがせ町」交差点を北へ約 10 分

問い合わせ先

各務原市歴史民俗資料館

Tel : 058-383-1361

e-mail : art@city.kakamigahara.gifu.jp

村国座駐車場周辺略図

